

川崎陸送 北東北向けに中継輸送、移液作業を分離

DOWA通運と提携し運送業務を効率化

川崎陸送(本社・東京都港区、樋口恵一社長)は、北関東から北東北向けの化学工業薬品の輸送で中継輸送をスタートさせた。茨城県五霞町のクリタ・ケミカル製造から岩手県内のユーザーに水処理薬品を納品するのに、同県奥州市のDOWA通運の営業所に中継拠点を設置。ユーザーへの配送および移液作業をDOWA通運に分離・委託する体制とし、長距離運行の拘束時間を減らし運送業務を効率化する。両社のドライバーが移液作業の専門技術を共有することで実現した。

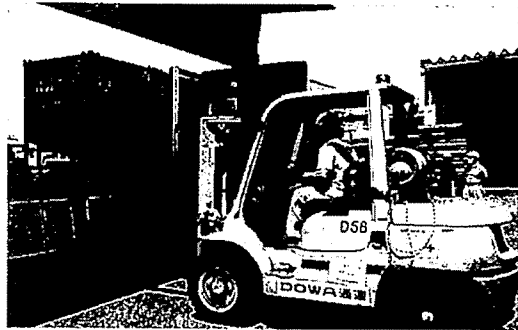
必要な機材供与し、ドライバーに技術指導

川崎陸送の江川営業所(茨城県五霞町)は、栗田工業のグループ会社であるクリタ・ケミカル製造の工場内に位置し、同社の中央配送センターの機能を担う。倉庫での商品の入出庫や保管管理のほか、ローリー、トラック、ユニック車などを駆使して東日本地域の配送業務全般を請け負っており、使用済み空容

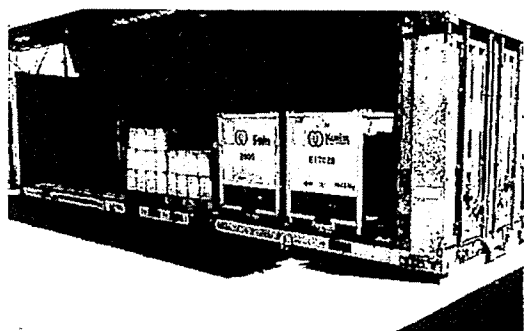
器の回収、洗浄作業も行う。

ローリーや1tコンテナで納品する場合は、納品先構内のタンクに移し替える作業を伴う。従来、江川営業所では1人のドライバーが製品および移液に必要な機材の積み込みと検品、幹線輸送(往路)、納品および移液作業、幹線輸送(復路)、営業所帰庫後のポンプ等の洗浄まで全工程を担い、北東北向けは2〜3日かかるの運行となっていた。

中継輸送はトレーラの差し替えやスワップボディコンテナ車を活用した取り組みが一般的。ただ、化学工業薬品等の輸送は



DOWA通運の中継拠点での荷降ろし



中継拠点で一時保管

移液作業に熟練を要するため、技術指導を受けた特定のドライバーしか納品できない「登録制」を導入している荷主も多く、途中でドライバーが変わる中継輸送はなじみにくい。

川崎陸送では北東北向けに中継輸送を検討するにあたり、現地での配送とともに移液作業に対応できる運送会社を探索。提携先となったDOWA通運に移液に必要な機材(ミニコンプレッサー、ミニバッテリー、ハンディポンプ)を供与し、同社のドライバーに移液作業の技術を指導し、実現に漕ぎつけた。

翌週納品便を一括輸送し輸送回数削減

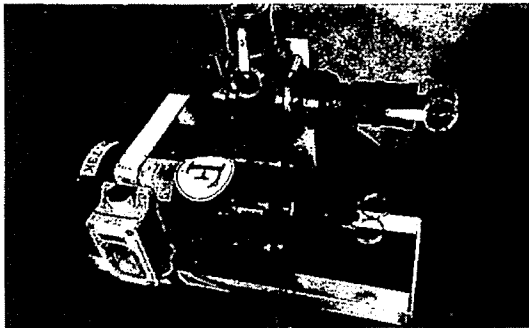
岩手県内のユーザーへの1tコンテナによる納品で中継輸送は

を先行実施。川崎陸送のドライバーは江川営業所から翌週納品分の製品を積み込み、DOWA通運の奥州市の拠点まで幹線輸送し、製品を降ろす。同拠点に回収された使用済み空容器を積んで江川営業所に戻るが、移液作業は行っていないため帰庫後のポンプ洗浄は発生しない。

DOWA通運の拠点に持ち込まれた翌週納品分の製品は一時保管された後、納品指定日に合わせて岩手県内のユーザーに納品する。移液作業の指導を受けたドライバーは、納品および移液作業を行うが、ポンプ洗浄は近隣の業者に外注し、ドライバー自身では行わない仕組みにすることで負担を軽減している。

移液作業は1tコンテナ1基あたり30〜40分程度かかる。また、従来は営業所に戻った後、

ポンプ洗浄の際に順番待ちが発生することもあり、ドライバーの拘束時間が長くなりがちだった。中継輸送により川崎陸送では納品・移液作業が分離され、拘束時間を短縮できるほか、移液作業ができないドライバーも幹線輸送に従事できるようになる。



移液作業に使用する機材(写真は100Vポンプ)

従来は納品指定日に合わせて週に5日、江川営業所と岩手県内のユーザーの工場を往復輸送していたが、DOWA通運の中継拠点に翌週納品便を一括輸送することで輸送回数を減らし、輸送に伴うCO₂排出量も削減できる。中継拠点で納品日を調整できるため、クリタ・ケミカル製造では納品日を変える必要がない。

川崎陸送ではDOWA通運と連携し、今後は北東北の他の納品先にも中継輸送のスキームを導入したい考え。また、クリタ・ケミカル製造の西日本の配送を請け負っている赤穂営業所から愛知・三重エリアの納品で、川崎陸送の名古屋営業所(愛知県大口町)を中継拠点に活用した中継輸送も準備中だ。